

芝富士小学校の子どもたちの活動が
たくさん紹介されています、26年4月～11月。



2014年 (平成26年) 4月18日 金曜日



埼玉新聞社 〒330-0801 さいたま市
本町1-1-1
TEL 048-755-9920

11 公式戦5連勝へ調整

7月で4位につける浦和は18日のホーム川崎戦に向け大原サッカー場で調整。18日のヤマザキビスコカップで鶴島に勝ち、現在公式戦4連勝と徐々に調子が上がっている。



19 豪の全盲少女が授業

オーストラリアの全盲の女子高校生が、川崎市の高野小学校「情報一学期」で日本語研修に臨んでいる。一緒に授業を受けた生徒は「会話の中でも英語の勉強になる」と話す。



- 2 雪害で3県協力体制確認
- 4 若手社長15人が国際交流
- 10 「卒業式の桜茶に」花摘み
- 18 県教育長が浦高物語出版

卒業式に味わう桜茶

川口市立芝富士小 6年生が校庭で花摘み

三学校発行
元日花摘みより
田中

川口市立芝富士小学校（大澤正則校長、児童数2556人）で、6年生児童2クラス45人が校庭の西端にある八重桜の花を摘んだ。来年度、自分たちの卒業式で来賓の先生たちが飲む桜茶にする。

「ほぐした桜茶を飲むんだ」と杉本峰（たかき）君。岩木郁さんと石田華那（はな）さんは「花がきれい。お茶にするのが楽しみ」。スミス・ジョシユア君は「みんなで作るのが楽しみです」。

満開になる前の花を選んだ。花は水で洗い塩漬けする。1週間後に色を鮮やかにするため梅酢を加える。栄養士も協力し、子どもたちと教員員の田中政子さんが作業を進める。「この花は来年の卒業式の目にお湯の中で初めて満開になるんだ」



「きれいだね」と花を摘む子どもたち—川口市立芝富士小学校

田中さんは民間会社のパートから転職し、同校で7年目。でも、とても楽しんでいます。「学校の仕事は花の手入れと田中さん。」（岸鉄夫）

ヨモギ摘みホットケーキに

川口市芝富士の芝富士小学校（大澤正則校長、児童数258人）は22日、ピオトープ観察会を同校で開催した。かつて娘が通い、今も孫が通う西尾三枝子さんから地域住民と学校が協力して15年間も続ける恒例行事だ。

この日は昼休みの時間を利用して、全学年から希望者を募り、112人の児童らが池のほとりや校庭の隅に散り、ヨモギの葉を摘んだ。あっという間にスーパ

ピオトープ観察会 芝富士小

ーマーケットのビニール袋2半分が集まった。
「表は緑色。だけど、裏が白いんだ」と3年生の巻下千洋君。2年生の西尾陽基君は「葉っぱはさらさらしてる」。3年生の大塚裕介君は「ヨモギ摘みはひさしぶり。楽しかった」。
放課後は、子どもらが家庭科室に集まって、保護者と一緒にヨモギ入りのホットケーキを焼き、皆で食べた。大澤校長は「もうすぐ桃の青い実に袋がけ、梅もまもなく収穫です。忙しくなりそうです」と話した。（岸鉄夫）



ヨモギを摘む子どもたち—川口市立芝富士小学校

●献血ルーム▽所沢・プロペ通り▽越谷レイクタウン▽川口駅▽熊谷駅▽さいたま・DOM PART IIIビル大宮ウエスト・クレアモール▽前10時～後5時半▽さいたま・大宮駅▽前9時45分～後8時半▽鴻巣・理転免許センター▽前8時45分～後4時半
▽入間・豊岡第一病院▽後0時半～4時▽西川口駅西口▽MEGADON・キホーテ北鴻巣店▽後1時半～4時

献血 (27日)

- 胃カメラの画像に見入る若菜冷え
- 一円貨財布に溢れる四月足
- 馬酔木咲く下校見守る通学路
- 背戸口に貝母一輪投込寺
- 夕映えの東京ドーム鳥帰る
- 行く春の午後陽射の花時計
- 教科書の匂いを嗅ぐ新学期
- 石の橋苔ふくくる花菖蒲
- 首長きブリキの如路路機の子
- 菜種梅雨雨足の根覆ふ庭の苔
- 花は葉に校舎静かに授業中
- 目の届くところ稚児ある花の窠
- のどかさる長寿水飲む光前寺
- 露結へぬ髪のおに風光る
- 花筏鴨に押さるる黒目川
- 天に雲雀地に釣人の動かさる
- 里一面山一面の桃の花
- ふる里の竹の子来た飯に炊け
- （連絡先）蓮田市緑町1の2
- 1の2 村上和徳
- 石原惟夫
- 吉田正治
- 関とし江
- 戸塚純一
- 武笠敏夫
- 小柳漢
- 渡辺さよ子
- 吉田敦子
- 小川誠
- 石田武夫
- 斉藤信雄
- 水戸部光則
- 野中幸雄
- 西片友
- 松澤昭人
- 山田千寿
- 村上和徳



★★★
彩の国さいたま
緑と森林再発見

第23回さいたま森林フォトコンテ

作品募集中

応募締切 平成26年6月25日 必着

主催／埼玉県緑化推進委員会・埼玉新聞
協賛／埼玉県・国土緑化推進機構・埼玉県テレ玉FM NACK5-REDS WAY
協賛／埼玉りそ銀行・埼玉県森林山形連

応募要項

- 作品テーマ
森林や緑などの自然風景、また、それらと人間との結び付きを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。
- 応募サイズ
A4サイズ（縦横）210×297mm以内
- 応募締切
平成26年6月25日必着
- 審査会
平成26年6月下旬に実施
- 審査発表・紙上作品展示
審査発表、紙上作品展示は、7月1日（日）18時～19時30分、埼玉新聞社（さいたま市中央区）にて実施
- 応募上の注意
①合成作品、組写真、②二重応募、または③応募作品の著作権は、主催者に帰属するものとします

県央



大豊作！収穫楽しみ口

芝富士小 校庭の桃に袋がけ川

≡学校発≡
 ≡元々だより≡

川口市立芝富士小学校(大澤正則校長、児童数256人)



「早く赤くなってほしいね」と桃の袋がけをする子どもたち—川口市立芝富士小学校

で校庭の桃の木3本に4年生の2クラス45人が袋がけをした。用意した500枚を使い切ったが、枝にはまた実が鈴なり。

子どもたちは「今年も大豊作だ」と楽しそうだった。大森菜さんは「おいしくなっていてほしい」と話し、峯岸武蔵君は「早く赤くなれー」。金田優太君と勝俣諒さんは「早く食べたい」。

地域住民の式田動さん(80)、伊藤一晃さん(72)、内海和雄さん(78)が子どもたちに袋がけのやり方を教えた。「700個は実った。子どもたちが楽しみにしているから、間引きの摘果はしないでおきましよう」と式田さん。「子どもたちが喜々として作業しているのが何ともいえずうれしいね」と内海さん。伊藤さんも「子どもたちと一緒に楽しい。収穫が楽しみ」と話した。(岸鉄夫)

(第3種郵便物認可)

牛の温かさに感動

川口乳搾り、バター作り学ぶ 芝富士小

三学校発 元気でより

県内の酪農家が牛と共に小学校を訪ねる「わくわくモースクール」が、川口市芝富士の市立芝富士小学校



スクールの最後に、子どもたちは自動搾乳機ミルカーによるシルビアの乳搾りを見守った。川口市芝富士小学校

(大沢正則校長、児童数262人)で開催された。生きた牛の体や絞り立ての乳の温もりに、子どもたちは「温かい」と驚き、感動した様子だった。訪問したのは坂戸市の亀田康好さん(80)ら酪農家約40

人。そして、亀田牧場のホルスタインのメスで8歳のシルビア、今年8月生まれのミリー、10月生まれのムーの3頭。シルビアの乳搾り、ミリーやムーとの触れ合い、バター作りなど授業内容は盛りだくさん。全校児童が一人一人、牛たちとの触れ合いを体験したため、朝から夕方までかかった。

県立熊谷農高畜産コースの有志生徒10人も手伝いに参加。2年生の田島陽行君は「学校では牛8頭や豚や鶏を飼っています。牛乳と鶏卵で作ったおいしい「くまのアイス」を芝富士小の子もたちに食べさせてあげたい」と話した。亀田さんは「今日、手のひらに落ちたシルビアの乳の温かさを忘れないでほしい。酪農経営は代が高く大変厳しい。これからは牛たちや酪農を応援していきたい」と話した。

最後に大沢正則校長は「牛たちは、母や父と広い自然の中で楽しく生きていきたいはず。私たちは牛たちからミル

クや肉、靴やかほんを使わせていたたいて、命をいたたいているのです。無駄にしてはいけない。今日学んだことを普段の生活に生かしましょう」と話した。

わくわくモースクールは、酪農家団体の県酪農教育ファーム推進委員会(青木雄治委員長)が2001年から今年で13年続く活動。年に3回開催し、各地の小学校から開催要望が殺到している。(座鉄夫)

町内飲食店で食べ歩きを

きょうから伊奈バル

伊奈町内を楽しくもらおうと、伊奈町商工会は14日から18日まで、町内の飲食店で「伊奈バル」を開催する。町内には大きな商店街がないことから、各自自治体商工会などが商店街で行う「街バル」とは違い、町内全体の飲食店を食へ歩きしてもらおうとが目的。飲食店以外の店も

参加していることが特徴だ。700円分のチケットを入手し、バル参加店を訪れる特別メニューやサービスを受けることができる。

バル参加店は全42店。チケットは3枚つづり2100円で販売しており、同商工会バル参加店で購入することができる。

問い合わせは、同商工会いねいなバル2014実行委員会(☎048・722・3751)へ。

西健吉さん小作品展

第98回二科展(2013年)

で内閣総理大臣賞を受賞した鹿児島市の洋画家、西健吉さん(78)の小作品展が17日まで、さいたま市大宮区北袋のあるびい

確かなデザイン力で魅了



青空に映える桜島や漁村の娘を描いた作品が好評。大宮区のあるびいの銀花ギャラリー

油彩やパステル20点

17日まで 大宮区

の銀花ギャラリーで開かれている。さまざまな表情の桜島や女性などをモチーフにした油彩やパステル、水彩画計20点が並び、確かなデザイン力で来場者を魅了している。「浜の娘」と題した作品は、係船柱に座り、沖から戻る船を見ている少女の後ろ姿に情感があふれる。

また、西さんの描く女性のまなざしは印象的で、「待つ」という作品に見入っていた新座市の男性は(69)は「まなざしから、女性が歩んできたストーリーが垣間見えるようだ」と話していた。

入場無料。午前1時から午後6時(最終日は午後4時まで)。問い合わせは、同ギャラリー(☎048・647・2856)へ。

(平野照恵)